

大学と家庭をむすぶ 後援会通信「グローズ」秋号

GROWTH

 東北学院大学
TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

vol.29 – 2016 Autumn



2016年 東北学院は
創立130周年を迎えました





ゆたかに学び、
しなやかに強く、
よく生きる心を育む。
地域で、世界で、
輝ける人であれ。



明治初期、西洋の国々のような近代国家をめざす日本において、特に教育の分野で大きな役割を果たしたのが、外国人宣教師です。今から130年前、ここ仙台でも、欧米の高度な知識と教養を求める若者たちのために、ウィリアム・E・ホーイ、押川方義らによって仙台神学校が開かれ、それがのちの東北学院となりました。

キリスト教の精神を抱く“学び”の流れは、やがて大きな潮流となり、多くの可能性と個性を育んできました。そして今、そのみずみずしい豊かな恵みは次代に向けて、新たな水脈を開こうとしています。「TG Grand Vision150(東北学院中長期計画)」。これは創立150周年に向けた確かな理念と行動指針であり、これからの時代と社会にふさわしい価値の創造を通じて「新しいTGブランド」の確立を目指すものです。

東北学院が目標に掲げるのは、豊かな人格と教養を備え、激動の現代における課題を探り、その解決の糸口と道筋を見出すことのできる人材の育成です。それを可能とするのが、建学の精神に基づく「ゆたかな学び」であり、一人ひとりの「よりよく生きる心」と、逆境をしなやかに乗り越えるレジリエンス(打たれ強い心)の育みです。「地の塩 世の光」として、社会に貢献し、地域で、世界で、輝ける人になってほしいと願っています。

ホーイ記念館(2016年3月竣工)

CONTENTS

03 [対談] 学生同士が学院大の今を
ホンネで語る

06 INTERVIEW To the next
100 years 学長 松本 宣郎

07 後援会総会報告

08 地区後援会報告

08 後援会資格取得報奨制度について

09 CAMPUS NEWS

13 学務部より・学生部より

13 就職キャリア支援部より

微風に揺れる木々の葉も徐々に色づき始め、秋の深まりを感じさせる時節となりました。このたび、後援会通信「GROWTH(グロース)」の秋号が完成いたしました。5月の後援会総会、7月～9月の地区後援会も無事に終え、学生が円滑に勉学や課外活動に励むための支援も滞りなく進んでおります。今後も学生の充実した大学生活のために、保護者の皆さまのご協力をお願いいたします。

見守られて、導かれる。
地域に、社会に広がる卒業生ネットワークは、
伝統ある大学ならではの。

経済学部共生社会経済学科4年
行川美佳さん



法学部法律学科4年
小野寺紳悟さん

東北ふるさとづくりパートナーズに所属し、ふるさとづくりに関するイベントを企画・実施しています。

68代目応援団長として、演舞を通してエールを送り続けます。

行川 私たちは、高校1年生の3月に東日本大震災を経験し、様々なことを深く考えさせられた世代であると思います。

小野寺 私は気仙沼市(宮城県)の出身です。大きな被害を受けたまちの姿を見て、「自分に何ができるのだろうか」とずっと自問してきましたし、今も考えています。入学して応援団に入ろうと思ったのも、エールを通じて、観る人に少しでも力を与えられたらと思ったからなんです。

行川 私の地元は岩手県の内陸部ですが、父の実家は津波の被害に遭ってしまいました。落ち込んでいた父の姿を見て、故郷の岩手県にずっと関わっていきたくて強く抱くようになりました。

小野寺 行川さんは、内閣府主催の「青少年問題調査研究会」で講演したと聞いたけど、すごいことですね。

行川 大学3年生の春から「東北ふるさとづくりパートナーズ」という任意団体に所属していて、その名の通り、ふるさとづくりに関する問題を探り、新しい方策などを提案し、実際にイベントも企画・実施していました。その活動が評価されて、内閣府からお声掛けをいただきました。多くの方から様々なご意見を伺えた貴重な経験となりました。小野寺さんは応援団の団長なんですよ。応援団といえば、入学式でのパフォーマンスを観て、あまりの迫力に衝撃を受けました。普段の学生生活では接点がないし、バールに包まれている印象があります(笑)。

小野寺 応援団は、今年70周年を迎えた学生会組織で、私は68代の団長です。主な活動はスポーツ応援ですが、今年は創立130周年ということで、同窓会やイベントなどに呼ばれて、演舞を披露する機会が結構ありました。学外活動を通じて感じるのは、東北学院の卒業生のネットワークの強さ。これは、歴史と伝統のある大学ならではの強さだと思います。

行川 確かに「(東北学院の)後輩だね」と声を掛

けていただく場面が多くあって、安心感がある一方で、学院の名に恥じないようにと考えることもありますね。

小野寺 社会資本整備(土木分野)を担う会社に就職する予定で、災害復旧・復興の仕事が発生した時には、被災経験が生かせるんじゃないかと思っています。

行川 私は食品軽包装資材の総合商社から内定を頂いています。将来的には、岩手の企業のパッケージ開発を手掛けるのが夢です。

小野寺 そのうち、スーパーやコンビニで行川さんが手掛けた包装デザインを見かけることになるのかな。楽しみです(笑)。



教養学部地域構想学科3年
林 絵梨奈さん



文学部英文学科3年
菊田 陽さん

“地域”と関わる活動が楽しくて、花山のカフェでのインターンシップに参加しました。

外国語を教える活動を通して、自分自身も教わっています。

菊田 林さんは花山(宮城県栗原市、旧花山村)にあるカフェのインターンシップに参加していると聞きましたが、どんな経緯で働くことになったんですか？

林 大学2年生になってから@plus(アプラス)という学生ボランティアのインカレサークルに所属して、児童・生徒の学習支援や、イベント・お祭りの



ボランティアをしていました。そもそも社会活動に興味があったんです。大学でもフィールドワークの授業がありましたが、継続的な取り組みとは言い難かったので、ある程度のまとまった期間、“地域”

に関わりたと思ったのがきっかけです。4月から9月までの半年間、週末は花山暮らしでした。

菊田 というと、泊まり込みだったんですね!どんな活動をしていましたか？

林 カフェは、飲食を提供するだけではなく、人とまちをつなぐ交流拠点と位置づけられていて、私も仙台から学生を呼んでイベントを企画したりしていました。菊田さんは、大学を飛び出して地域の中で活動することはありますか？

菊田 そうですね、付属の東北学院幼稚園で英語を教えたり…教えるというよりは、英語で遊んだり

たくさんの見聞と経験が、
机上の学びと、
リアルな現場「社会」を
つなげてくれます。

林 外国語を学ぶ難しさは、私たちが経験するところだけど、教えるってさらに大変そう。

菊田 もちろん教科書があればそれに則ることが大切ですが、オリジナルの教材を作ったり、ゲームを取り入れてみたり、集中してもらえる工夫をしていました。学年によって理解度が違うこと、また同学年でもクラスによって雰囲気があったく違うこともあって、教員を目指す私としては興味が尽きませんでした。経験が学ばせてくれるものって大きいですね。

林 花山は、近年、過疎化・高齢化が進んでいるのですが、外部からの視点で眺めてみると、いろいろな魅力があるし、可能性や潜在力もたくさんあることがわかります。また、中山間地域に特有のコミュニティの姿というのも見聞きできました。机上の学び(授業)と現場が繋がったと感じられたのは、インターンシップの大きな成果。卒業論文に展開できればいいなと思っています。

菊田 私たちは、経験を通じて、自分自身の世界と知識を広げていくのだと思います。学生生活の残り1年半で、経験値をもっと増やしていきたいですね。



と表現したほうが正しいかな…市内の小学校の「外国語活動」の授業を担当させてもらったりしていました。この夏には「宮古イングリッシュ・キャンプ」に講師として参加しました。東北学院大学は宮古市と連携協力協定(2014年3月締結)を結んでいて、そのご縁で実施されたんです。



高梨 将さん
経産学部経営工学科3年

庄子 匠真さん
工学部電気情報工学科3年

ミスターコンのグランプリでつかんだチャンス。俳優デビューに向けて、日々トレーニングです！

専攻分野を活かしてマシンを自作し、ソーラーバイシクルレースに出場しました。

努力次第でやりたいことが見つかる！ 新しいことにチャレンジする、チャンスをつかまえよう。

高梨 庄子君は、8月に大湯村(秋田県)で開催された「ソーラーバイシクルレース」*1に参加したんだよね。太陽電池で自転車の電動アシスト機能を動かすなんて、すごい技術！

庄子 このレースへの挑戦は、僕が所属する「エコノパワー研究会」(工学部文化部)の活動の柱なんだ。

高梨 工学を専攻しているから、得意分野が生かせそうだね。

庄子 回路設計班と機体製作班に分かれて開発・製作して、それを統合していくプロジェクト型...と言えはいいのかな。僕たちのマシンは、既製品を搭載するのではなく、一から自作するため、プログラミングなどクリアしなくちゃならない課題が多かった。レースでは完走できなかったけど、研究会として来年につながる経験値が増やせたのは成果と言ってよいと思う。高梨君は、全国のミスターキャンパスが集まるコンテスト*2でグランプリになったんだよね。おめでとう！

高梨 そもそものきっかけは大学祭。友達が大学祭の実行委員をしていて、『ミスターキャンパスコンテストに出てほしい』と言われて。学生時代の思い出作りに、と軽い気持ちで出場したら優勝して、その流れで全国大会にもエントリーすることになったんだ。自分の道が大きく拓かれることになるとは想像もなかった。

庄子 大きなチャレンジだね。

高梨 少し気おくれするところもあったけど、コンテストには自然体・平常心で臨めたのが良かったと思う。高校では器械体操に打ち込んでいてバク転が得意だったから、それを披露したのがアピールにつながったのかな？

庄子 将来的には俳優業とか視野に入れての？

高梨 事務所に所属して、演技の勉強を始めているんだ。自主的にトレーニングにも取り組んでいるし、英会話もそろそろ始めようかなと。厳しい世界だから半歩可な気持ちじゃダメなのはわかっている。『どんな役でもこなせる息の長い俳優になる』とい

う自分の固い意志が、前に進む力になると思う。

庄子 将来の出発点が、大学祭とは興味深いね。僕は太陽光発電などのエネルギー関連に興味があったんだけど、工学部には先進的な研究に取り組んでいる教授がいっぱいいるし、設備も充実している。いろんな引き出しがあるのが本学の特徴だね。ソーラーバイシクルレースも、手厚いサポートのおかげで参加できたんだ。

高梨 自分の努力次第で、やりたいことが見つかるし、実現できる。東北学院大学はそういうフィールドだと思う。

庄子 同感。これからもお互いがんばろう！

*1/ワールド・グリーン・チャレンジ・ソーラー・バイシクル・レースとは、レギュレーション(競技規則)に沿って太陽電池を搭載した自転車を作成して、一周25kmのコースを4周し、タイムを競い合うレース。【主催:ワールド・グリーン・チャレンジ組織委員会、開催場所:大湯村ソーラースポーツライン】

*2/全国のミスターキャンパスの中から1位を決める「JUNON×MUJ 2015-2016」雑誌「JUNON」とMUJ(Mr.UniversityJapan)のコラボにより開催される。全国の大学のミスターコンテストでグランプリを受賞した男子大学生が、コンテストへの応募資格を持つ。



伝統を受継ぐ決意と、 新価値創造に挑む勇気と。 “学生第一主義”の下、 未来と向かい合う。

東北学院の礎石が築かれたのは1886(明治19)年。西洋の英知とキリスト教の精神を求めて集まった6人の若者に向け、私塾「仙台神学校」が開かれました。

それから130年。時代の激しい嵐の中にあっても、その礎は揺らぐことなく、地域の中で先導的な役割を果たす人材を輩出してきました。

そして今、創立150周年を見据えた計画が始動しています。歴史と伝統を次代へつなぐ決意と、新しい価値創造にチャレンジする勇気を携えて。根底にあるのは「学生第一主義」の視座です。

東北学院スピリットを 次代につなぐための確かな理念と行動。

今年、東北学院は創立130周年を迎えました。長い歴史と伝統に縁られた学び舎を築立っていった学生は、現在までに18万人。今や、東北のみならず全国津々浦々で、また海外で、社会や地域に根を下ろし、豊かな実りを結んでいます。こうした多くの先達によって脈々と継がれてきた東北学院スピリットを次の世代に継承していくためにも、明確な理念と行動が求められます。

私たちはこの度、これからの20年、すなわち創立150周年を視野に置いた「TG Grand Vision150(東北学院中長期計画)」を策定いたしました。その基本となる考えをここに示したいと思います。

「Students First」、 そして「地域に開かれた大学」としての 進化と深化。

一つは「学生第一主義～ Students First」です。その柱となるのが「教育の質保証」であり、「能力と個性に応じたきめ細かな支援」です。前者に関しては、学生からのフィードバックをもとに、学びの効果を最大化する授業・講義を展開していきます。これには教員一人ひとりが襟を正し、教育とは何かを探究する姿勢を備えなければなりません。一方で、学生個々の授業評価に応え、到達目標の達成を実現させます。さらには、大学生活に困難を覚える学生のケア・サポートを一元的に行う組織・施設を拡充し、支援体制を強固なものとしします。

二つ目は、「地域に愛される」「地域に開かれた」大学としての進化と深化です。本学はこれまでも地域社会に根ざす教育機関として、様々な活動に取り組んできましたが、さらに新しい協働や連携に向けて可能性を探っていきます。学生にとっても、地域の人々と親しく交流することは、多様な価値観に触れる好機となりましょう。また、地域の方々からも、学生のはつらつとした活力を求める声があります。

日々を豊かにする「よりよく生きる心」を、 「ゆたかな学び」で育む。

三つ目は、スクールモットーの一つである「地の



学長 松本 宣郎

塩 世の光」を根幹とする奉仕の実践です。熱心なボランティア活動は、本学の際立った特徴の一つですが、今後はさらに人びとの痛みに寄り添い、分かち合う姿勢を大切にしていきたいと考えています。近年、各地で自然災害が頻発していますが、東日本大震災の体験者としてできることは多いはずですよ。

「TG Grand Vision150」が目指すのは、人間教育・人格教育を継続・発展させる「ゆたかな学び」の具現であり、「よりよく生きる心」の育みです。そして私たちの試みと成果が結びついたその先に、次なる100年に向けた「新しいTGブランド」が確立されるものと信じています。

現在、東北学院では新キャンパス構想が進んでいますが、その第一弾として今年9月「ホーイ記念館」がオープンしました。1階には焼き立てパンが並ぶカフェもあります。近くにお越しの際には、ぜひお立ち寄りいただきたいと思ひます。

学長 松本 宣郎

1970年東京大学文学部西洋史専修課程卒業。1973年同大学院人文科学研究科(当時)修士課程修了。東北大学文学部講師、助教授、教授。この間文部省在外研究(英国)。博士(文学:東京大学)。2000年東北大学大学院文学研究科教授、宮城学院理事長・学院長などを経て、2013年4月より東北学院大学学長。2014年4月より東北学院理事長に就任。著書に『地中海(地域からの世界史10)』(朝日新聞社、1992年)、『ガリラヤからローマへ-地中海世界をかえたキリスト教徒-』(山川出版社、1994年)他多数。専門はローマ史。1944年生まれ、岡山県出身。



次第

- 日時** 平成28年5月28日(土) 10時55分～
- 会場** 東北学院大学泉キャンパス礼拝堂
- 司会** 後援会事務局長 渡邊 義春

- 開会 司 会 者
- 聖書朗読並びに祈祷 宗 教 部 長 野 村 信
- 挨拶 会 長 鎌 田 宏
学 長 松 本 宣 郎
- 議 事
 - (1)平成27年度後援会庶務報告について 庶 務 担 当 事 白 木 進
 - (2)平成27年度後援会収支決算報告並びに
会計監査報告について 会 計 担 当 事 浅 野 ひとみ
監 事 中 鉢 俊 也
 - (3)東北学院大学後援会会長の選任について 庶 務 担 当 事 白 木 進
 - (4)平成28年度後援会事業計画(案)について 庶 務 担 当 事 白 木 進
 - (5)平成28年度後援会収支予算(案)について 会 計 担 当 事 浅 野 ひとみ
 - (6)その他
- 後援会役員紹介 司 会 者
- 閉 会 同 上



議長を務める鎌田会長



総会の様子

泉キャンパスに、約550名の保護者をお迎えし、平成28年度の後援会総会並びに大学開放プログラムを開催いたしました。総会で審議されました内容は次のとおりです。

- 平成27年度後援会庶務報告について**
白木進庶務担当理事より、役員人事、平成27年度役員会、平成27年度後援会総会並びに大学開放プログラム、平成27年度地区後援会実施状況について報告があり、原案通り承認されました。
- 平成27年度後援会収支決算報告並びに会計監査報告について**
浅野ひとみ会計担当理事より報告があり、原案通り承認されました。中鉢俊也監事より帳簿等が正確に整備されていることについて監査報告がなされました。
- 東北学院大学後援会会長の選任について**
白木進庶務担当理事より、東北学院大学後援会会長の選任について、引き続き鎌田宏会長が推挙され、満場一致で選任されました。
- 平成28年度後援会事業計画(案)について**
白木進庶務担当理事より、平成28年度後援会総会、平成28年度地区後援会、資格取得報奨制度について説明があり、原案通り承認されました。
- 平成28年度後援会収支予算(案)について**
浅野ひとみ会計担当理事より説明があり、原案通り承認されました。

大学開放プログラムでは、就職キャリア支援資料室をはじめとした施設見学、今井奈緒子教養学部教授の演奏によるパイプオルガンコンサート、学科別懇談会や個別面談コーナーなどが実施されたほか、「学生の就職を考えるセミナー」と題し、株式会社マンパワーの田中稔哉取締役が講話しました。さらには、マラソンランナーでスポーツコメンテーターの千葉真子氏を招いて「保護者と学生のための教養セミナー」を開催いたしました。会場は熱気にあふれ、盛会裏に終えることができました。



パイプオルガンコンサート

個別面談



学生の就職を考えるセミナー



保護者と学生のための教養セミナー

■来年度は平成29年5月27日(土)に開催の予定です。ご案内状は4月下旬に発送の予定です。

7月から9月にかけて、北は札幌市から南は東京都までの全28地区に本学教職員が出向き、東北学院大学の近況報告や成績、学生生活、就職活動等の説明、個別面談などを行いました。

今年度は、教員によるミニ講演を実施し、教養学部地域構想学科の和田正春教授が「東北学院大学が取り組む地域連携型教育」をテーマに講演をいたしました(DVD上映)。講演では、地域連携の取り組みや、学生たちの「学び」を紹介し、保護者からは大変好評をいただきました。

地区後援会は、次年度も継続して開催する予定ですので、保護者の皆さまのご出席をお待ちしております。



秋田地区後援会の様子

総会・地区後援会に参加された保護者の皆さまの声を一部ご紹介いたします

【総会】

- 個別面談では、悩んでいたこと(就職活動)にきちんと対応していただき、安心できました。(環境建設工学科4年)
- 奨学金の相談では、とても丁寧にご対応いただき、ありがとうございました。(地域構想学科1年)
- 学科別懇談会では、教員の方から、個別に色々とお話をいただき、一緒に考えてもらい感謝しております。(人間科学科4年)
- 就職を考えるセミナーは、就職を考える準備として良い機会となりました。(法律学科3年)
- 初めてパイプオルガンを聞く機会に恵まれて楽しみに来ました。入学式での演奏も気になっていたもので、すばらしい演奏でした。ぜひ来年も来たいです。(共生社会経済学科1年)

【地区後援会】

- 資料も見やすく話しもわかりやすく理解できました。(経営学科4年)
- 和田先生の講演によって、地域との連携教育にとっても興味がわきました。地域の活力になってほしいです。(法律学科3年)
- アクティブラーニングの重要性が良く理解できました。(経済学科1年)
- 今回3回目の個別面談になりますが、保護者の不安を解決の方向に導いていただき、大変感謝しております。(経営学科4年)

東北学院大学後援会
資格取得報奨制度について

東北学院大学後援会では、資格取得の奨励と学生の資質向上を目的として、後援会費を納入いただいている現役の大学院生、学部生を対象に、在学中の国家資格取得者やTOEIC、TOEFLiBTなどの基準点取得者へ、資格取得報奨金を給付いたします。

■給付額一覧

司法試験合格者、公認会計士、税理士、弁理士、司法書士、システム監査技術者、ITストラテジスト ほか	現金20万円
中小企業診断士、行政書士、社会保険労務士、気象予報士、土地家屋調査士、不動産鑑定士、測量士、一級知的財産管理技能士、通訳案内士、第一級総合無線通信士、ITサービスマネージャ、第一級陸上無線技術士、環境計量士、情報セキュリティスペシャリスト、ネットワークスペシャリスト、データベーススペシャリスト、応用情報技術者、総合旅行業務取扱管理者 ほか	現金10万円
通関士、宅地建物取引士、海事代理士、インテリアコーディネーター、エネルギー管理士、放射線取扱主任者、一般計量士、公害防止管理者(大気)、二級知的財産管理技能士、基本情報技術者、管理業務主任者、一級造園施工管理技士、社会福祉士、危険物取扱者(甲種)、技術士補、TOEIC(900点以上)、TOEFLiBT(105点以上)、IELTS(7)、英検1級 ほか	現金5万円
TOEIC(730点以上)、TOEFLiBT(77点以上)、IELTS(6)、英検準1級、日商簿記1級 ほか <small>※TOEIC、TOEFLiBT、IELTSの申請については、在学中につき1回とする。</small>	現金3万円

※東北学院大学後援会資格取得報奨制度規程は、後援会及び大学のホームページなどに掲載しております。該当する方は、規程をご確認の上、就職キャリア支援課(係)へ申請してください。



「ホーイ記念館」オープニングセレモニー開催

去る9月5日、土樋キャンパスの新校舎「ホーイ記念館」のオープニングセレモニーが、本学関係者や工事関係者ら、多数の来賓の出席のもと執り行われました。この建物は、教室や事務室だけでなくとどまらず、多目的スペースやカフェバーカーなど設けることで、地域に開かれたキャンパスを目指して2014年秋に着工。約18ヵ月におよぶ工事を経て竣工したのち、建物内外のインフラ整備などを進め、ついにこの日を迎えました。

セレモニー会場となったのは、1Fのコラトリエ・commons。開式にあたって野村宗教部長による礼拝が行われ、続いて主催者を代表して松本宣郎学長が挨拶。開設に向けて協力・尽力いただいた関係各位への感謝にはじまり、「教育の質的変換を図る上でも、地域の方々との交流の場としても、21世紀の都市型ユニバーシティにふさわしいキャンパス。ここで学生たちが主体的に学び、社会に貢献できる人材を育てていければ」と、同キャンパスへの思い、果たすべき役割を述べました。



松本学長による挨拶

来賓祝辞では、東北大学理事で財務・施設・キャンパス計画担当の佃彦氏が「今後も東北大学と東北学院大学で連携し、国立・私立の垣根を越えた交流ができれば」と期待を寄せ、本学OBでもある宮城県議会議員長の中山耕一氏からは、「これまでも多様な環境変化に対応してきたのが東北学院大学。建学の精神を柱に、さらなる発展を期待します」との言葉をいただきました。

その後、来賓紹介や祝電披露、新キャンパスの概要説明を経て、セレモニーは無事終了。コラトリエ・リエゾンに場所を移して行われた会食では、スペース内のカフェバーカーを運営する「石窯パン工房 ばーすでい」によるパンやサラダなどが出席者に振る舞われ、和やかな雰囲気の中、本学に刻まれた新たな歴史の1ページを祝いました。



セレモニー会場の様子



「石窯パン工房 ばーすでい」での会食

ホーイ記念館の特徴

「ホーイ記念館」の名称は、本院の三校祖のひとりであるW・E・ホーイに由来。地下1階、地上5階の建物であり、1・2Fには協同的な学びによる仲間との交流、主体的な学びを実現する「ラーニング・commons」のためのスペースが設けられています。例えばオープニングセレモニーが行われた「コラトリエ・commons」は自由なコミュニケーション空間。2Fの「コラトリエ・サヴォア」は探求・創造空間と位置づけるなど、それぞれのスペースのコンセプトに沿った仕様・機能を整備しています。



- 施設概要**
- 地下1F: ホール
 - 1・2F: 学習支援スペース[ラーニング・commons] 事務室[就職キャリア支援課、入試課、広報課、国際交流課] カフェバーカー(地域の方々の利用可能)
 - 3F: 教室
 - 4・5F: 教員研究室

来し方を振り返り、未来を展望する 創立130周年記念行事・事業を開催いたします

今年、創立130周年の節目を迎えた東北学院では、様々な記念行事・事業を企画しております。その第一弾として、5月14日(土)、前文化庁長官で東京大学名誉教授の青柳正規氏をお招きし、記念講演会『自然と人間、そして自然科学』を開催いたしました。これからの持続可能な社会づくりに向けた青柳氏の提言に、聴講者は熱心に聞き入っていました。



記念講演を行った青柳正規氏

記念行事・事業では、長い歴史の中で果たしてきた教育・文化的な役割をあらためて振り返るとともに、東北学院に連なる各学校の園児・生徒・学生の多様な取り組みをご紹介します。ぜひお越しください。

※以下、開催日/期間、場所の明記がない催しに関しては、詳細が決まり次第、ホームページ等でご案内いたします。

- ◎ラーハウザー記念東北学院礼拝堂ステンドグラス鑑定・講演会
 - 日時/11月5日(土)13:30~
 - 会場/土樋キャンパスラーハウザー記念東北学院礼拝堂
 「ラーハウザー記念東北学院礼拝堂」(昭和7年3月竣工、国の登録有形文化財)に掲げられているステンドグラスの鑑定を専門家に依頼。その結果と歴史的意義・価値を紹介する講演会を開催します。
- ◎東北学院フェスティバル
 - 日時/11月12日(土)14:00~
 - 会場/泉キャンパス礼拝堂
 東北学院幼稚園、同中学校、同高等学校、同榴ヶ岡高等学校、同大学の園児、生徒、学生が一同に会して、演奏や合唱を披露します。
- ◎東北学院史資料センター主催「東北学院特別展」

東北学院史資料センターの所蔵物やパネルを展示します。
- ◎地域コーディネーター見本市

東北学院大学COCプログラム『地域共生教育による持続的な「ひと」づくり「まち」づくり事業』の一環として、地域課題の解決に取り組む方々や、マッチングの場としての本学の機能を紹介します。
- ◎クリスマス・イルミネーション

毎年多くの方にお楽しみいただいているクリスマス・イルミネーション。今年は、創立130周年を記念して、より鮮やかで華やかな光の輝きがキャンパスを彩ります。



2017年4月、工学部に情報系と電気電子系 2つの新しい学科が誕生します

工学部は2017年4月から、電気情報工学科が名称を変え、電気電子工学科となり、さらに情報基盤工学科が新たに設置されます。



リオデジャネイロパラリンピック、遠藤義安職員が男子柔道の監督を務めました

この夏、手に汗握る熱戦が繰り広げられたリオデジャネイロオリンピック・パラリンピック。前大会のロンドンパラリンピックから、男子柔道の監督を務めているのが、本学学生部に勤務する遠藤義安職員です。コーチを担った2000年のシドニー大会から継続して視覚障がい者柔道と関わっている遠藤職員。一年の内、延べ4か月は仙台を離れ、強化合宿などに参加しているといいます。「ナショナルチームは、選手を核に、フィジカルおよびメンタルトレーナーや栄養士、スポーツ医、映像・データ解析など、様々な分野の専門家が集まった組織です。それをひとつにまとめ上げるのが監督の役割。個を見て、さらには全体を俯瞰することが求められます」。

近年、欧州や南米、旧ソビエト連邦諸国などの台頭が著しい柔道界。世界と伍して戦う難しさは並大抵なものではありません。「海外の選手は、柔道だけではなくサンボやレスリング、ブラジリアン柔術といった競技を学んでいたりしますが、我々は、これら格闘技の良いところを取り入れながらも日本古来の柔道のかたちを大切にしつつ、精神力・技術・体力をさらに高めていくことが大切であろうと思います。まさに心技体の錬成ですね」。

2020年東京パラリンピック、そしてその後の視覚障がい者柔道の発展を見据えた東奔西走の日々が続きます。



遠藤義安氏



会場の様子

心はいつでも挑戦者。弓道部(女子)が昨年到现在、全国制覇を成し遂げました

6月25日(土)、26日(日)の両日、全日本弓道連盟中央道場並びに明治神宮武道場至誠館弓道場で開催された「第28回全国大学弓道選抜大会」において、本学体育会弓道部(女子)が初優勝! 昨年秋の「第39回全日本学生弓道女子王座決定戦」日本一の栄誉に続いて2度目の快挙です。

弓道部女子の部員は8名、そのうち大会に出場するのは1、2年生の7名という少数精鋭。全員が高校から弓道(部活動)を始めた経験者です。「授業のない日は、午後3時から9時まで、泉キャンパスの弓道場で練習します。緊張感の中で精神を鍛え、技術を磨くことを目的に、対戦形式の練習を取り入れています」と語るのは女子責任者の小林愛美さん(教養学部人間科学科2年)。弓道といえば競技の中でも特にメンタルの強さが要求されるというイメージがありますが…。「的は動かない、自分の心が動くといわれます。集中力を高めるためにも、ルーティン(決められ

た一連の動作)を大事にする選手が多いですね」。今や全国の強豪校に追われる立場ですが、「心は挑戦者です」。これからの活躍にご注目ください。



全国制覇を成し遂げた弓道部(女子)

「平成28年熊本地震」現地支援活動報告

— 東北学院大学 災害ボランティアステーション —

今年4月に発生した「平成28年熊本地震」に際し、災害ボランティアステーション学生スタッフが現地で支援活動に参加しました。参加者を代表して2人のスタッフに活動内容などについて訊きました。



現地での活動内容、感じたことは?

市川 まずは、現地で自分たちに何ができるかを把握するために視察に行きました。その際に感じたのは、被害エリアが広大で、復旧具合もだいぶ地域差があるな、と。ただ、現地の方々は立ち止まっていた訳ではありません。例えば自分たちと同じ大学生が、地震発生後すぐに避難所の子どもと遊ぶ活動を始めるなど、皆さん自発的な取り組みをされていて、学ぶことが多かったですね。そして、仙台に戻ってから、現地の状況、どんな支援が必要とされているかをボラステ内で共有し、実際に活動に向かったのは6月初旬です。



室井 沙月さん
(文学部 英文学科3年)

室井 私たちが携わったのは、主に御船町に設けられていた避難所運営のお手伝いや、避難されている方々とお話など。避難所という、それまでの日常とは異なる場所での生活は、きつと計り知れないストレスがあると思います。活動に赴いた時は、地震からそれほど時間が経っていませんでしたので、皆さんの心情に配慮しながら、嫌な記憶を呼び起こさないようにたわいもない会話をしたり、子どもたちと遊んだり。少しでもストレスの軽減になれば、心が和らげばと思いながら取り組みました。

今後、現地とどう向き合っていくか?

室井 東日本大震災でもそうでしたが、やはり継続性が大事。活動中、被害を受けた方と会話する機会があったのですが、「これから生活をどう再建すればいいか不安」とおっしゃっていました。余震がある度に「あの方、大丈夫かな」と思いますし、できることなら、また現地に行きたいという気持ちが強いです。被害を受けた方々の気持ちも、何が求められているかも、実際にその場に身を置いて初めて理解できることばかり。現地の方々の立場で、自分たちにできる支援を継続していかなければ、そう強く思います。

市川 同感ですね。距離的な問題もあり、頻繁に行くことはできないかもしれませんが、たった1・2回のお手伝いで終わるようなことにはしたくありません。今回の活動は4日間という短いものでしたが、ことあるごとに知り合った方々の顔が思い浮かびます。もちろんボラステを通して今後も継続的な支援ができればベストですが、手段はさまざま。枠組みにとらわれず、どんなカタチでも、どのタイミングでも、現地で被害を受けた方々のために直接お手伝いがしたい。いまはそんな気持ちでいっぱいです。



市川 文章さん
(文学部 総合人文学科3年)

募金活動も行いました

4月20日から5月16日まで、東海大学農学部阿蘇キャンパス所属の学生と協働で募金活動を行いました。集まった募金の総額は311,524円となり、5月27日に被災地(熊本県)に送金させていただきました。



募金活動の様子▶

台風10号大雨被害を受けた岩手県宮古市・岩泉町で災害ボランティア活動を実施

今年8月末に発生した台風10号で被害を受けた岩手県宮古市と岩泉町でボランティア活動を実施。学生・教職員が汚泥撤去など家屋の清掃活動を行いました。今後も継続的な活動を行う予定です。



▲宮古市での活動の様子



▲岩泉町での活動の様子

学務部より

ラーニング・コモンズ

学務部長
千葉 昭彦

今年9月にオープンしたホーイ記念館の中にラーニング・コモンズ“コラトリエ”が設置されています。これは学生の協同的なまなびや仲間との交流を行うための空間です。全体は3つに分かれていて、1階西側のカフェ“ばーすでい”と一体化しているのが“コラトリエ・リエゾン”で、イベントスペースとしての顔も持ち、地域と大学の交流の場としての性格も持っています。ゼミやサークルなどの発表会や地域開放型イベントにも利用できます。1階東側は“コラトリエ・コモンズ”で、学生専用空間としてグループ学習やワークショップが行えるよう、電子黒板や資料提示システムなども備えられています。2階東側も学生専用空間の“コラトリエ・サヴォア”で、学習支援スタッフのサポートがある中でプレゼンテーションの練習やミーティングなどを行うことができます。

9月に入って供用開始となりましたが、すでにパソコンやホワイトボードなどを囲みながら、常に学生が集う場となりつつあります。去る9月24日(土)には、同志社女子大学の上田信行先生をお招きしてオープニングイベントが開催されました。その時の様子は現在、大学のホームページで動画として配信されていますので、是非ともご覧いただければと思います。

これまで本学にはなかったタイプの空間です。単に知識を授かると言ったまなびから、学生が相互にまなびあう場、知識を使うトレーニングをする場ですので、ここでのまなびを通じて、またひとつ“進化した学生”にたくさん巡り合えることを期待しています。

学生部より

学生生活について

学生部長
石垣 茂光

既に前号でご紹介いたしました、TG MINDというホームページをご覧くださいませでしょうか。東北学院大学のホームページにリンクされており、学生の課外活動について紹介されております。例えば、体育会弓道部(女子)が全国大会優勝とか、陸上部や準硬式野球部、バトミントン部が東北地区大会で活躍しているとか、あるいは仙台七夕おもてなし隊への参加や泉区民ふるさと祭りへの参加などの活動報告のみならず、今後の予定などについても掲載されておりますので、ぜひともご覧いただきたいと思っております。

また、10月9・10日は泉キャンパスにおいて泉キャンパス祭が、翌週には多賀城キャンパスでの工学部祭、土樋キャンパスでの六軒丁祭が開催されました。学生の日ごろの活動の成果や、学生生活の一端に触れる機会でもありました。ご来場いただきました皆様には心より感謝申し上げます。

次に、具体的取り組みの一つとして、学生総合保健支援センター【保健室】では、学生の生活習慣の把握と改善へ向け、毎年ライフスタイル調査を行っております。2015年度の結果では「就寝・睡眠時間」「飲酒頻度」「喫煙率」において改善が見られました。しかし約半数の学生が「朝食を抜くことがある」と回答する等の問題点もありました。学生が自ら実践できるよう、手軽にバランスの良い食事を摂る方法を伝え、生活習慣の改善について指導を行っております。



■課外活動応援サイト
<http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/tgmind/>



就職キャリア支援部より

10月以降の
就職キャリア支援行事

就職キャリア支援部長
ロングクリストファー

皆様の手元にこの冊子が届くころ、3・4年生対象の様々な就職キャリア支援活動が行われています。3年生に対しては「就職キャリア支援ガイダンス」が3つのキャンパスにおいて年度末までにほぼ毎月行われています。また、採用試験として広く使用されるSPI適性検査の対策講座と実施を無料で行っております。

保護者の皆様に対しては「保護者のための就職セミナー」は例年通り11月に泉キャンパス、そして1月に多賀城キャンパスで行われますが、今年においては、土樋キャンパス学生の保護者に対して、後期から使用可能となった新館のホーイ記念館で開催される予定です。

4年生の場合、この時期になると、就職が決まらないと「もうダメだ!」と焦りはじめる学生もいます。しかし、決してあきらめる必要はありません。就職キャリア支援部では10月から年度末にかけて、未内定者の4年生には、特別な就職支援を行っております。「企業の単独セミナー」、「フォロー講座」及び「企業紹介制度」はその具体例です。

就職活動は学生にとって多大なストレスを伴います。決して一人で悩まず、早めに就職キャリア支援課で相談を受けることを願っております。学生一人一人の就職のため、就職キャリア支援部の教職員が一丸となって努力をしております。今後も、ご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

後援会の主な事業・助成のご紹介

後援会では、在学生の円滑な学生生活と大学の充実、発展に寄与するため、“大学と家庭をむすぶ”をモットーに各種事業を展開し、以下のような助成を行っております。

後援会総会、大学開放プログラム、
地区後援会の実施

東北学院大学後援会資格取得報奨制度

※8ページをご参照願います。

体育会、学生会、文化会等の
課外活動団体への助成

就職活動に
対する助成

各種
イベントの開催

- 合同企業セミナー
- 保護者のための就職セミナー
- 面接対策講座 など

東北学院大学各種奨学金への助成

保健衛生に対する助成

「保護者のための大学ガイド」・
「グロース(春・秋)」の発行

後援会ホームページのご案内

東北学院大学後援会のホームページでは、後援会の最新情報をお届けするほか、後援会総会・地区後援会のご案内、後援会通信のバックナンバーなどを随時更新いたします。

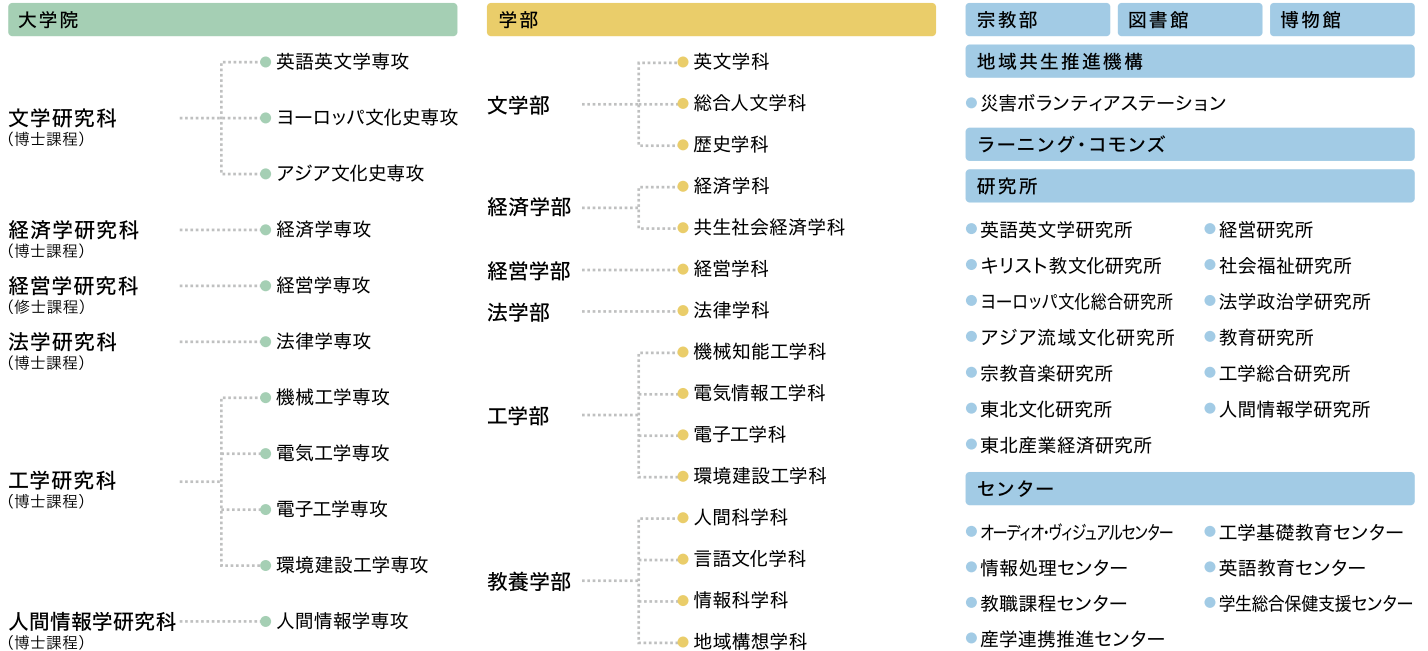


<http://www.tgu-kouenkai.org/>

- 会長 …… 鎌田宏(仙台市)
- 副会長 …… 後藤久幸(仙台市)・高橋祥允(仙台市)
- 庶務担当理事 …… 白木進(仙台市)
- 会計担当理事 …… 浅野ひとみ(仙台市)
- 理事 …… 寒河江満子(仙台市)・佐久間敬子(仙台市)・村山令記(仙台市)・藤齋靖(仙台市)・今野文昭(仙台市)・庄子真由美(仙台市)・小久保仁(仙台市)・長谷昌武(仙台市)・庄司幸男(気仙沼市)・武内宏之(石巻市)・櫻井俊寛(大河原町)・桂久(札幌市)・成田智典(青森市)・松本宏(八戸市)・小野寺久美子(秋田市)・深澤禎彦(横手市)・工藤敏納(盛岡市)・及川和夫(北上市)・高橋清一(金石市)・浦島康弘(大船渡市)・金子泰雄(山形市)・鈴木信一(酒田市)・國分容子(福島市)・影山昭午郎(郡山市)・只野裕一(相馬市)・福井丈夫(新潟市)
- 監事 …… 菅野雅之(仙台市)・中鉢俊也(仙台市)・佐浦みどり(仙台市)
- 顧問 …… 松本宣郎・佐々木哲夫
- 参与 …… 高木龍一郎・原田善教・村野井仁・前田修也・高橋志朗・菊地雄介・中沢正利・水谷修・野村信・菊地祐一・千葉昭彦・七海雅人・石垣茂光・ロング クリストファー・佐藤義則・楊世英・日野望
- 事務局長 …… 渡邊義春
- 事務局員 …… 鈴木徹・二階堂哲・土田恵介・宮川信明・荒井和弘・加藤文昭・木村悦子・栗林野一・増田敏・水野徹・森谷徹・廣瀬理行

ORGANIZATION 教学組織図

平成28(2016)年4月1日現在



東北学院大学

土樋 キャンパス	大学院：文学研究科、経済学研究科、経営学研究科、法学研究科 学部：文学部・経済学部・経営学部 法学部(各3・4年)、夜間主コース 〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1 tel 022-264-6421(総務課) fax 022-264-3030(//)	多賀城 キャンパス	大学院：工学研究科 学部：工学部 〒985-8537 多賀城市中央1-13-1 tel 022-368-1116(庶務係) fax 022-368-7070(//)
泉 キャンパス	大学院：人間情報学研究科 学部：文学部・経済学部・経営学部 法学部(各1・2年)、教養学部 〒981-3193 仙台市泉区天神沢2-1-1 tel 022-375-1121(庶務係) fax 022-375-4040(//)		

東北学院大学後援会通信 GROWTH (グロース) vol.29

■本誌に関するご意見・ご要望をお待ちしております。

発行日/平成28(2016)年10月

編集/東北学院大学後援会事務局(総務部総務課内)

発行/東北学院大学後援会 〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1 tel 022-264-6411 fax 022-264-3030

E-mail kouenkai@mail.tohoku-gakuin.ac.jp URL http://www.tgu-kouenkai.org/

印刷/ハリウ コミュニケーションズ株式会社

○GROWTH(グロース)の意味は、「成長する」です。聖書には、「どんな種より小さいのに、成長するとどの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる」(マタイによる福音書13章32節)、また、「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です」(コリントの信徒への手紙一3章6節)と記されています。東北学院大学の学生の皆さんが各分野において、知識や技術、教養を十分に修め、神と人に視されつつ大きく成長するようという期待が本誌に込められています。

【本誌における個人情報及び掲載記事の取り扱いについて】本誌に掲載されている個人情報は、本人の了解のもとで本誌に限り公開しているものです。よって、第三者がそれらの個人情報を別の目的で利用することや、本誌の無断転載はお断りしております。

【「個人情報保護法」への取り組みについて】平成17年4月1日より「個人情報の保護に関する法律」が施行されたに伴い、東北学院大学後援会では個人情報の取り扱いについて、学校法人東北学院が制定した「学校法人東北学院個人情報保護規程」にのっとり、個人情報の適正な管理と保護に努めています。後援会事務局では、東北学院大学後援会の運営に必要な皆様の個人情報をお預りしていますが、今後も個人情報保護法に基づき慎重に取り扱って参りますので、皆様方のご理解・ご協力をお願いいたします。なお、後援会事務局で使用される個人情報の利用目的は次の通りです。

●「保護者のための大学ガイド」並びに「後援会通信「グロース」」の発行・送付 ●後援会総会、並びに「地区後援会」の案内 ●その他、上記に関連する業務

